本の題名 作者 出版社 原本→翻訳言語	あらすじ	感　　想
じゃあじゃあ　びりびり まついのりこ 偕成社 日本語→ポルトガル語	水道から水の出る音、車の走る音、紙が破れる音などいろいろな音をオノマトペで表現。	「娘はこの絵本を見てひとりでお話を作って私に話してくれました。こんなこともできるんだと、感動しました。」（母）
なんでしょなんでしょ 高畠純 アリス館 日本語→ポルトガル語	ペンギンが砂浜に絵を描きます。ゴリラやかえる、ぶたが次々と砂の上に現れます。	「途中までの絵で子どもたちは想像します。熊だと思ったら蛙でした。鼻がいっぱい描かれたのは豚、これは当たりでした。最後のページには広い砂浜、ここはコピーして絵をかきました。」（ブラジル人保育園）
きいて！さわって！このどうぶつなぁに？ 柏原晃夫 永岡書店 日本語→ポルトガル語	ライオンや羊など動物の体には合わせた布が貼ってあり、さわって感じ、動物の顔を押せば鳴き声がとびだす。	「楽しいね。子どもは喜ぶよね。」（ブラジル人保育園）
ちいさなねこ 石井桃子/文　横内襄/絵 福音館書店 日本語→ポルトガル語	小さなねこが、町に冒険に行きます。道路を渡ろうとして車にひかれそうになったり、大きな犬に追いかけられたり…最後にはお母さん猫の元に無事帰りました。	「お母さんが子猫をどんなに大切に思っているかを自分たちになぞらえて教えました。」（ブラジル人保育園）
おにぎり 平山英三/文　平山和子/絵 福音館書店 日本語→ポルトガル語	ご飯を炊いておにぎりを作る手順が絵本に。シンプルな内容と絵ですが、子どもは身近な食べ物だけに興味深々。	「この本一番よかった！本当はこの本を見た後、みんなで作ればよかったんだけど、うちの子どもたちはみんな小さくてできない。熱いしね。」（ブラジル人保育園）
ふゆめがっしょうだん 長新太/文　富成忠夫・茂木透/写真 日本語→ポルトガル語	冬の間のいろいろな木の芽。怒った顔ややさしい顔、とげとげの木や赤い芽も。寒い中春を待ちます。	「木の芽がいろいろな人に見えます。子どもたちには世の中にはいろいろな人がいるということを教えました。」（ブラジル人保育園）
ばばばあちゃんのマフラー さとうわきこ 福音館書店 日本語→ポルトガル語	ばばばあちゃんは寒い中で咲いている花をみつけたらマフラーを風除けにしたり、動物たちの傘代わりに貸してあげたり、季節ごとの出来ごと満載。	「冬の景色は『怖い』って言いました。強い風の日やマフラーが川に流されるページがあり、『危険』を教えました。」（ブラジル人保育園）
せんろはつづく 竹下文子/文　鈴木まもる/絵 金の星社 日本語→ポルトガル語	線路を作る。野原を、山を…トンネルも掘る。橋も作り、道を横切る時は踏切を作る。どこまでも続けていくと…向こうから汽車がやって来た。	「4 歳の子どもが線路を作って行くところをとても興味深げにみていました。」（ブラジル人保育園）
ぼくがおおきくなったら くすのきしげのり/文　いもとようこ/絵 佼成出版社 日本語→ポルトガル語	森の広場で動物たちが「大きくなったらどうなるか」を話しています。でもキツネの兄弟は想像がつきません。それを家に帰ってお母さんに話すと…	「ひらがなもポルトガル語も読めないけれど、絵をみながらうれしそうにお話してくれました。」（父）
たのしいおてつだい いわいだゆうこ ポプラ社 日本語→ポルトガル語	机の上にお皿、食べ物や果物、スプーンやフォークを並べていきます。準備する物はパズルのようになっていて、実際に並べられます。	「子どもたちが、自分でとったり入れたりできるので楽しいです。こういうのは好きですね。」（ブラジル人保育園）
くだものいろいろかくれんぼ いしかわこうじ ポプラ社 日本語→ポルトガル語	赤いページの次をめくると、大きな穴が開いています。それを赤いページに重ねると、りんごになります。英語も併記。	「たとえばこのぶどうの形…子どもたちに『なぁに？』って聞くと、『雲』とか返事が返ってきました。みんなー生懸命考えます。」（ブラジル人保育園）
ねずみのえんそくもぐらのえんそく 藤本四郎 ひさかたチャイルド 日本語→ポルトガル語	ねずみ保育園ともぐら保育園の遠足。それぞれが地上と地中を歩いていると、いろいろな生き物や出来ごとに会います…	「ねずみももぐらもいろいろな事件にあいます。子どもたちには、みんなで力を合わせて解決していくことを教えました」（ブラジル人保育園）